

喘ぐ化け猫

浅井 忍

人
物

大沢 紗枝 (27) 百貨店の受付嬢

市村 圭佑 (29) 会社員

神崎 美幸 (25) 紗枝の大学の同級生

宮田 優香 (27) 紗枝の同僚

○ 市村の部屋・中（夜）

1 L D K。

リビングのソファでイチャついている
大沢紗枝（27）と市村圭佑（29）。

市村が紗枝をソファに押し倒す、と、
猫の鳴き声が聞こえる。

紗枝と市村の間にいつの間にか入り込
んでいる子猫のミーちゃん。

市村「ミーちゃん、いつの間に入ってたの？」

鳴きながら市村に擦り寄る子猫。

市村「よしよし、寂しいの？」

市村、子猫を抱き上げ唇を寄せたりし
ながら、紗枝に背を向ける。

紗枝「（恨めしそうに市村を見つめている）」

市村の後ろから抱き付く紗枝。

紗枝「その猫、やっぱり私が引き取る」

市村「いいよ、今更。紗枝のところ、動物飼

えないだろ？」

紗枝「何とかする」

市村「子猫だし、そんなコロコロ住むところ

変えたら可哀想じゃん」

紗枝「私の事、嫌いみたい」

市村「そんなことないよ。お腹空かして動けないミーちゃんを拾ってきたの、紗枝だろ？ ミーちゃんが命の恩人を嫌うわけがない。なあミーちゃん」

紗枝「……」

子猫が市村の首元によじ登ってきて、紗枝の顔を引つ搔く。

紗枝「イッタ！」

驚いて、市村から離れる紗枝。

市村「どうした？」

紗枝「引つ搔いた、その猫（と、頬に手をやると血が付く）」

市村「紗枝がそんな話するからだろ？（紗枝の頬を一瞥して）大した傷じゃないし。ミーちゃん、ここにいて良いからね」

子猫を抱きながら立ち上がり、

市村「ミルク飲もうか？」

キッチンに向かう市村。

紗枝「……」

○ 丸本百貨店・1階フロア・中

買い物客が歩いている。

○ 同・案内所

制服を着た紗枝と宮田優香（27）が

案内所の中に立っている。

客に店内案内をする紗枝。

紗枝「……突き当り左にございます。ありがとうございます」

去って行く客。

優香「で？ その子猫に嫉妬してる？」

紗枝「嫉妬って言うか、私に敵意剥き出しだ
で、いつも邪魔する」

優香「まあ、猫もそういう感情あるかもね」

紗枝「猫って言うか、化け猫よ」

優香「まあまあ。今度、ハワイ行くんでしょ？」

紗枝「うん、何とか休み合わせできたんだ」

優香「猫も連れて行くって言うんじゃない？」

紗枝「え？」

優香「まあ、まさかね。いいなあワイハ〜」

紗枝「……」

○ 市村の部屋（夜）

リビングのソファで話す紗枝と市村。

市村は子猫を抱いている。

紗枝「え！ 行かない！？」

市村「うん、やっぱまだ子猫だし、置いてけ

ないよ」

紗枝「せっかくやつと休み合ったんだよ？」

市村「でもまだ申し込んでないし、家で二人

でゆっくりしようよ」

紗枝「……。ペットホテルあるじゃん」

市村「だから、もうちよつとミュが大きくな

ってからじゃないと無理だよ」

紗枝「ミュって何よ……」

市村「え？ ああ、ミーちゃん、ミーちゃん、

ミュ、みたいな？」

紗枝「その名前、やめて」

市村「だって、ミーちゃんって呼んでも、反応悪くてさ。ミュって呼んだら、めっちゃ

反応良いの」

紗枝「そんなの、偶然でしょ」

市村「ほんとだって。呼んでみろよ」

紗枝「（子猫に）ミーちゃん、ミーちゃん」

子猫は全く反応しない。

市村「ほらな？ ミュって呼んでみろよ」

紗枝「（ムキになって）ミーちゃん、ミーちゃん！」

市村に甘える子猫。

紗枝「ミュ……」

ゆっくり、紗枝に振り返る子猫。

紗枝「！」

市村「な？ ミュ」

ミュを過剰に撫でる市村。

紗枝をジッと見つめる子猫。

紗枝「忘れてないんだ……」

市村「え？」

紗枝「ミュって美幸のことでしょ！？」

市村「何言ってるの？」

紗枝「美幸のこと、たまにそう呼んだの知ってるんだから！」

市村「いい加減にしろよ」

部屋を出て行こうとする市村。

紗枝「圭佑！」

市村「今日はもう帰れよ」

紗枝「……」

○ 紗枝のアパート・全景（夜）

○ 同・紗枝の部屋・中（夜）

帰ってきたばかりの様子
の紗枝、居間で佇んでいる。

紗枝「（考え事をしている）」

チェストの引き出しを開け、封筒を取り、中の写真を取り出す紗枝。

写真には、山王大学卒業式と書かれた看板の前で、仲良く腕を組んで写る袴

姿の紗枝（２２）と神崎美幸（２２）。

写真を見つめる紗枝。

紗枝「……」

○ 市村のマンション・玄関前

中（夜）

扉を開ける市村、紗枝が立っている。

市村「紗枝」

市村に突然抱き付き、激しいキスをする紗枝。

市村「どうしたの？ 紗枝」

戸惑いながら、紗枝を受け入れる市村。

子猫「にゃん」

紗枝と市村の後ろで子猫がジッと見つめている。

市村「（子猫に気付き）ちよ、ミュが見てる」

市村の服を脱がそうとする紗枝。

市村「分かった分かった。先にベッドに行つてて。俺、トイレ行ってくるから」

トイレに向かう市村。

子猫の姿はない。

紗枝「……」

○ 同・寝室・中（夜）

入って来る紗枝、ギョツとする。

ベッドの真ん中で顔だけ上げて、寝そべっている子猫、紗枝をジッと見つめている。

紗枝「何してんの？ あんた。そこは私と圭

佑の場所なんだから！」

毛づくろいを始める子猫、なんだか妙に妖艶な感じ。

紗枝「出て行きなさいよ！」

毛づくろいをしながらジッと紗枝を見つめる子猫、いつの間にか子猫が全裸の神崎美幸（25）になっている。

紗枝「美幸……」

美幸、ジッと紗枝を見つめている。

紗枝「今更、何しにきたの！？」

美幸「（ジッと見つめている）」

紗枝「あんたが悪いんでしょ！　あんたが自分の彼氏、私に紹介するから！」

美幸「（ジッと見つめている）」

紗枝「何よ、その目！」

美幸に掴み掛かる紗枝。

寝室の扉が開き、市村が入ってくる。

市村「何してんだ！」

ベッドの上で子猫を押さえつけている

紗枝、苦しそうな子猫。

市村「（紗枝から子猫を引き離し、子猫を抱き

締め）大丈夫か？　ミュ」

紗枝「その猫は美幸よ！　美幸が圭佑を奪い

返しにきたの！」

市村「何言っただよ」

紗枝「その猫に美幸が乗り移ってるの！」

市村「いい加減にしろ！　乗り移るって何だ

よ！」

紗枝「手首切ったじゃない！」

市村「助かっただろ！　殺すな、勝手に」

紗枝「じゃあ生霊よ！　美幸の生霊よ！」

市村「あいつはそんな奴じゃない！」

紗枝「美幸の肩を持つの！？」

市村「（溜息）やっぱ帰ってくれ」

紗枝「圭佑」

市村「（怒鳴って）帰れ！」

ベッドの上で子猫を肩に乗せ、紗枝に背を向ける市村。

紗枝「……」

紗枝をジッと見つめる子猫。

にゃんくと一鳴きすると全裸の美幸になり、市村に絡みついている。

美幸の手首から血が流れる。それを市村の首筋に擦り付け舐める美幸。

挑発的に紗枝に微笑みかける美幸。

ヨロヨロ後ずさりして部屋を出る紗枝。

○ 同・寝室・前

扉を閉める紗枝。

中から子猫の鳴き声が聞こえてくるが、女の喘ぎ声にも聞こえる。